府立吹田東高等学校
校長　　佐々木　啓

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。
１「基礎学力の充実(土台作り)」　自ら学んで疑問を持ち、論理的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
２「勉強・部活動・行事をバランスよく」　安全で安心できる環境の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。
３「地域密着型の学校」　地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。

２　中期的目標

新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立をめざす

1　新学習指導要領により、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用を行い、興味・関心がもてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業を通して、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
（１）指導と評価の年間計画(シラバス)を、年度最初の授業で、生徒に説明し、自ら学ぶ助けとする。
（２）資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価(観点別評価)の工夫を図る。
（３）授業形態の工夫や ICT 機器を効果的に活用した授業実践を推進し、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答(平成 30 年度 53.2%)を、2021 年度には 60%にする。指導と評価の年間計画(シラバス)は役立っている肯定的回答(平成 30 年度 48.1%)を 2021 年度には 60%にする。

2　確かな学力や高い志等をもてる学習支援
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。
（１）進学実績等で達成感を維持する。国公立関関同立産近甲龍 150 名。
（２）教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する（１、２年)。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答として平成 31 年度 90%をめざす。(平成 30 年度 83.4%)
（３）GTEC を１、２年生、全国レベルの模擬試験を２年全員受検させる。
※論理的に考える態度を育むと共に、GTEC の有効性活用を検証し、新しい大学選抜制度にかみ合う取組みを検討する。また、３年次の進路指導において、模擬試験の結果を有効活用する。
（４）Ｓ講座(外部講師が本校で講習をする実力養成講習)を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
（５）成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科で実施する。１、２年は土曜講習などの中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。
※成績不振による原級留置者０名を目標とする。
（６）図書室、自習室の利用促進を図る。

3　豊かでたくましい人間性のはぐくみをめざす。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
（１）基本的生活習慣を確立させ、生徒相互にも気持ちを伝え合える環境づくりをめざす
あいさつ指導、遅刻指導、服装指導、ベル着指導(チャイムと同時に授業開始)をおこなう。
※積極的にあいさつ、声掛けを心がける。年間遅刻数(年間一人平均 1.0 回)以下を維持する。
（２）社会で通用する人材を育成するため、様々な事柄に疑問を持ち、それを解決する力をつけさせる。そのため、３年間の LHR や総合的な探究の時間、授業を通して、主体的で深い学びが持てるよう検討を進める。
（３）健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。
「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を 2021 年度 60%(平成 30 年度 48.7%)をめざす。
（４）学校生活を快適に過ごせるよう、新校舎の教室等の施設設備の充実を図る。
（５）一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
・特別活動を活性化する。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
・生徒委員会活動等を活性化する。
※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答について 2021 年度 75%をめざす。

4　開かれた学校づくりと広報活動等の充実
（１）開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校、大学等との連携を図る。
（２）本校の特色を活発に広報等する。
・ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト等を適宜更新するとともに、広報活動に力を入れる。
※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答(平成 30 年度 78,1%)を引き上げ、2021 年度には 85%以上にする。

5　人材育成への取組
（１）設立 12 年目を迎える GUTS(若手塾)の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
（２）経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みを実現し、ミドルリーダーの育成を図る。
（３）働き方改革の推進を行い、教職員の健康を守ると共に、生徒と向き合う時間を増やす。

6　個人情報等の適正な管理
（１）個人情報等の適正な管理を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和元年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
・昨年と比較し、生徒・保護者とも多数の項目で肯定的な回答が増加している。 ・「施設・設備」については新校舎に移転したこともあり、かなり満足度が上昇した。 ・進路指導、情報提供についての肯定的回答は高い。 ・生徒指導面について、生徒・保護者ともに肯定的回答が増加した。 ・地域・大学等との交流について生徒の認知度はあがったが、保護者の「わからない」との回答も４割以上あり、さらなる広報活動が必要と考えている。	第１回（令和元年６月 22 日） ・学校のイメージが、「厳しい」「落ち着いている」「進路に力をいれている」などでそれを望んで入学してくる生徒が多く、その校風がさらに定着していってほしい。 ・アクティブラーニングやグループワーク等授業形態はいろいろあるが、評価の指標が重要だと思う。小中学校で行われている学力学習状況調査では、生徒にどのような力が付いたか等」の評価指標があり、それを参考にしてみてはどうか。 第２回（令和元年 11 月 28 日） ・家庭学習時間を上げるのに、主体的な学びの面からも家庭学習を促すような授業内容の工夫が必要。 第３回（令和２年１月 29 日） ・授業アンケートについて、平均だけでなく、バラつき・標準偏差等も活用してはどうか ・挨拶指導について、きちんと続けてほしい。

府立吹田東高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
新学習指導要領による、「主体的・対話的で深い学び」の実践。	(１)シラバスの説明 (２)新学習指導要領の研究・実践及び資質・能力の育成につながる多面的･多角的な学習評価(観点別評価)の工夫を図る。 (３)授業形態の工夫やICT 機器の効果的活用等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。	(１)年度初めに、科目毎に作成したシラバスを配付し、内容、評価の仕方等を理解させ、学習に生かす。 (２)次期学習指導要領の研究及び各教科科目の観点別評価の検討を行い、シラバスに反映させる。 (３)授業形態の工夫や、ICT の効果的な活用で、授業等への参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会を中心に、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。 ・ICT を活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT(電子黒板、プロジェクター、ＴＶ、ビデオ、書画ｶﾒﾗ、パソコン、タブレット等)を活用した教材開発とその共有化を進め、授業で活用する。	(１)自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、55%以上をめざす。(平成30年度48.1%) (２)新学習指導要領によるカリキュラム編成に向けた教科会議を行い、シラバスに反映する。 (３)授業アンケートで、興味・関心、知識・技能の全体平均を、平成30年度(3.08)より向上。年度内でも向上させる・授業観察シートの活用度向上。・教員相互の授業見学実施率95％(平成30年度94%)	(１)生徒による長期を見通した活用が出来なかった。54.1%【△】 (２)新学習指導要領に向けた教科会議を経て、カリキュラム委員会で検討中。【○】 (３)3.12。第１回 3.14、第２回3.11【○】授業見学実施率97%【○】
確かな学力、高い志をもてる学習支援	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。 (１)進学実績等で達成感を維持する。 (２)教科で講習の年間計画の策定実施 (３)GTEC（１・２年)、模試(２年)を全員受けさせる。論理的思考を育てる (４)Ｓ講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (５)成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。 (６)図書室、自習室の利用促進	(１)進学実績等で達成目標を設定する。３年間の進路指導計画を活用し、自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。 (２)年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏季講習を実施する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。 (３)GTEC テストを実施することにより、資格取得と次への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、進路意識を高める。また、論理的に考えるよう指導を行う。 (４)外部講師に対し、指導方針をたて効果がえられるようにする。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (５)指名補習を実施し、基礎的な力をつけさせ、単位の修得を図る。・単位修得に向けて週休日の家庭学習の定着を図るため、総合の時間で基礎学力診断テストを実施し、成績不振者は宿題等個別指導をする。 (６)図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室の利用促進を図る。	(１)国公立・関西私立大(関関同立産近甲龍)現役合格者数120名の維持・３年間の進路指導計画の効果的実施の実現。・学校生活実態調査や模試結果の有効活用を更に図る。・進路ガイダンス等の回数の増加・授業以外の学習時間１時間以上の生徒増加(平成30年度1年48%、２年46%、３年81%) (２)「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答90%(平成30年度83.4%) (３)GTECで、目標１年生平均385点、２年生平均405点 (４)欠席者に対して、出席喚起連絡する等支援を行う。欠席者数減。 (５)成績不振による原級留置者０人 (６)総合の時間等授業で、図書室利用を図る。生徒図書委員による図書館便りの発行。自習室を活用して学習習慣を定着させる。利用１日平均12人以上(H30年10名)。	(１) 合格者 84 名【△】・進路指導計画【○】・有効活用【○】・進路ガイダンス等、保護者・生徒に好評であり、質量共に充実【◎】　・授業以外の学習時間１時間以上の生徒(1 年 53.8%、2 年 43.8%、3 年 71.4%)【△】 (２)講習 84.2%【△】、青葉丘セミナーを年間５回開催【○】 (３)1 年生 479.5、２年生 483.4（◎) (４)３年Ｓ講座の出席率は、現代文 88.1%、古文 84.8%、数学 95.6%、英語 89.8%で 10 月に終了。内容も向上し、昨年度よりも出席率は向上した。１、２年は２月まで実施中。【◎】 (５)３名【△】 (６)図書館利用【◎】　自習室活用平日平均 10.3 人【△】
豊かでたくましい人間性のはぐくみ。生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	(１)基本的生活習慣を確立させ、生徒相互が気持ちを伝え合える環境づくりを行う。 (２)社会で通用する人材を育成するため LHR や総合的な学習の時間の有効活用を行う。 (３)健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。 (４)学校生活を快適に過ごせるよう、教室等の施設設備の充実と美化に努める。 (５)一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。･生徒委員会活動等を活性化する。	(１)あいさつ、声掛けを行い、遅刻指導、服装指導、ベル着指導・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。・服装指導の高い評価を継続する取組み推進 (２)LHR 計画や総合的な学習の時間で、志(こころざし)学に取組む。特に人権尊重の取組み、防災教育の取組み、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、海外の高校との交流・語学研修、校内語学研修を実施し、その成果を共有化する。 (３)検診時を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・高校生活支援カードの有効利用。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。 (４)定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の配備、適時補充も行い、生徒並びに教職員の美化意識を高める。 (５)学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に取組ませることで企画・運営力を育成し、達成感を持たせる。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化する。・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化する。	(１)年間遅刻数(年間一人平均1.0回以下)を維持(平成30年度0.99回)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。 (２)１年次に生徒同士の集団づくりや俳句創作や発表の機会を設ける。 ・オーストラリアとの交流・語学研修実施。希望者10名以上(H30年3校で23名本校16名参加) ・学校で英語語学研修を実施。 (３)検診結果から個別の保健指導を行う。特に歯科の追跡指導について年７回以上指導する。「担任に気軽に相談できる。担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」(H30年度49%)の肯定率を上げる。・ (４)清掃習慣の定着に向けた取組み推進。清掃場所に応じた清掃用具の配備と点検を行う。 (５)「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答が半数以上を占める。 ・新入生の部活動加入率の増加(平成30年度89.4%)・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。	(１)１月末現在　一人平均 0.92 回【◎】 (２)俳句創作、実施、外部での入賞者多数【◎】 ・オーストラリア語学研修 12 名参加【○】・校内語学研修 26 名参加【○】 (３)個別の保健指導　実施中【○】担任への相談 67.7%【○】担任外への相談 54.0%【○】 (４)清掃習慣【○】、新校舎に合わせた清掃用具の配備【○】 (５)クラス活動 82.3%【◎】 新入生部活動加入率 90.0%【○】 生徒会活動【○】
開かれた学校づくりと広報活動等の充実	(１)新分掌「広報部」を中心として、開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。 (２)新分掌「広報部」を中心として、本校の特色を活発に広報等する。	(１)体育祭、文化祭等学校行事の公開・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。 ・中学校との相互の公開授業を行って教員の授業力を向上させ、生徒の授業理解度を高める。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (２)新分掌「広報部」を中心に、広報渉外等を、校務運営委員と、副担、新任４年目迄及び有志教員で運営していく・ウェブページに、情報を発信する。在校生保護者への広報活動も充実させる。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトや学校紹介ビデオ等をさらに魅力あるようにバージョンアップする。・学校説明会等を通し、情報収集と広報に努める。	(１)体育祭、文化祭等行事への地域からの参加者数の増加。(昨年度計180名)・地域教育協議会等への参加等の継続。地域と保護者との連携を行う。 ・クリーンキャンペーンを、地元との協同で実効あるものとする ・中学校公開授業に参加する。 ・「本校のホームページを見たことがある」の回答(平成30年度78.1%)を引き上げる。 (２)全教員による中学校訪問の実施。(平成30年度ほぼ全員) ・ウェブページの更新を組織的に行えるように、改める。更新回数月２回以上行う。	(１)体育祭の地域からの参加者５名、文化祭の地域からの参加者 75 名、中学生及びその家族参加者 372 名【◎】 ・クリーンキャンペーンに生徒 56 名、地域30名､大阪大学の学生11名参加。適正人数であった。【○】 ・学校行事の為、中学校公開授業不参加・ホームページ閲覧 74.3%【△】 (２)中学校訪問を年度末に実施【○】ウェブページは広報部で随時更新月４程度【○】
人材育成への取組み	(１)GUTS(若手塾)の取り組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。 (２)経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みをする。 (３)働き方改革の推進	(１)校内研修において、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJT を進める。 (２)GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。ミドルリーダー育成を図る。 (３)校内組織等の見直しを行い､教員の働き方改革を進め、教職員の健康を守ると共に、生徒と向き合う時間を増やす　・ICT を活用した情報共有を進める。	(１)GUTS年間８回以上(平成30年度９回) (２)ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年２回以上設定する。 (３)超過勤務の平均時間減、長時間勤務者の減少を図る。	(１)GUTS８回実施【○】 (２)公開授業２回実施【○】 (３)月平均 33.1h（昨年度 31.5h） 長時間勤務者 45 人（昨年 26 人）【△】
個人情報の適正管理	(１)個人情報の適正管理を行う。	(１)校舎移転を含め、個人情報の適正管理を行う。	(１)個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。	(１)適正に実施【○】